

## 幼児教育学科 2年 後期 専門科目

1. 教師論
2. 教育心理学
3. 子どもの食と栄養Ⅱ
4. 保育内容(健康)の指導法
5. 保育内容(環境)
6. 社会的養護Ⅱ
7. 保育内容(総合表現)Ⅱ
8. 臨床美術の実践Ⅱ
9. 保育実習指導Ⅱ
10. 保育実習指導Ⅲ
11. 保育実習Ⅱ
12. 保育実習Ⅲ
13. 教育実習指導Ⅱ
14. 教育実習Ⅱ
15. 幼児教育演習Ⅰ
16. 幼児教育演習Ⅱ
17. 保育心理演習
18. 音楽表現演習
19. 造形表現演習
20. 幼児体育演習
21. 保育・教職実践演習(幼稚園)

## 幼児教育学科

科目名: 教師論			担当教員 氏名: 宮越 浩子						
単 位	開講時期(年次・期)		科目の区分	授業方法	(卒業要件) 必修/選択	備考			
2	2年次	後期	専門科目	講義	必修	保育士資格指定科目(必修) 幼稚園教諭二種免許状科目(必修)			
実務経験を用いてどのような授業を行っているか:			学校現場における教員経験をもとに、教職の意義、教員の役割・資質能力・職務内容等について、今日の教育現場における具体的事例を取り入れながら解説し、理解を深める。また、今日求められる教員像に向かう「私」づくりを継続するための視点を得られるようなアクティブ・ラーニング型授業を行う。						
授業科目の学習教育目標の概要:					キーワード				
現代社会における教職の重要性の高まりを背景に、教職の意義、教員の役割・資質能力・職務内容等について身に付け、教職への意欲を高め、さらに適性を判断し、進路選択に資する教職の在り方を理解する。					・成長を目指す教師・保育者 ・教職の意義 ・教師・保育者の役割 ・職務内容				
授業における学修の到達目標									
学習教育目標 (卒業認定・学位授与の方針との関連)			自己形成を進める行動目標 (福短マトリックスで示される番号)		1. 2. 3. 4. 5. 6.				
A 知識・理解力			教職の意義、教員・保育者の役割、教員・保育者の職務内容、チーム学校への対応について理解する。						
C 論理的思考力			幼稚園、保育所、児童福祉施設での保育者の仕事の共通点と相違点、家庭との連携について考える力を身につける。						
D 問題解決力			様々な方法による自己表現を積み重ね、今日求められる教員・保育者のあり方について考える。						
E 自己管理能力			保育者の社会的責任・役割を理解し、求められる保育者像に向かう「私」づくりを継続する。						
G 倫理観			保育現場で求められる教員・保育者としての倫理観について身につける。						
成績評価の方法・基準: 以下の方法により評価し、学則および履修要項に従い、60点以上を単位認定とする									
テスト:	%	レポート:	70 %	発表:	%	実技試験:	%	その他:	30 %
特記事項: ・上記の「その他:30%」においては、授業への参加姿勢・態度、課題の提出状況などを評価する。 ・本科目ではアクティブ・ラーニングの一環として、グループワークやディスカッションの機会を積極的に取り入れる。 ・課題の提示ならびに提出には、主にGoogleクラスルームを使用する。									
アクティブラーニング要素: 課題解決型学習      ディスカッション、ディベート      グループワーク      プレゼンテーション      実習、フィールドワーク									
テスト・レポート・発表・実技試験等の実施時期: 毎時間のミニレポート、ならびに中間・期末時期にレポートを課す。									
課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法: レポートは評価終了後返却し、その後の学び方の改善やさらに学びを深めるために活かすよう指導する。									
授 業 計 画				準備学習(予習・復習等)					
				学習内容	学習に必要な時間(分)				
①「保育者」への扉をあげよう				【予習】これまでの実習での指導を振り返る。 【復習】①での学びと資料をもとにしたミニレポート作成	【予習】60分 【復習】120分				
②保育者の仕事とは①—公教育の目的とその担い手である保育者の存在意義				【予習】①の復習 【復習】②での学びと資料をもとにしたミニレポート作成	【予習】60分 【復習】120分				
③保育者の仕事とは②—保育者和其他の職業との比較、保育者の職業的特徴				【予習】②の復習 【復習】③での学びと資料をもとにしたミニレポート作成	【予習】60分 【復習】120分				
④保育者に求められる資質とは①—教職観の変遷と今日求められる役割				【予習】③の復習 【復習】④での学びと資料をもとにしたミニレポート作成	【予習】60分 【復習】120分				
⑤保育者に求められる資質とは②—今日求められる基礎的な資質能力				【予習】④の復習 【復習】⑤での学びと資料をもとにしたミニレポート作成	【予習】60分 【復習】120分				
⑥保育者の職務と生活①—幼児への指導以外の校務と職務の全体像				【予習】⑤の復習 【復習】⑥での学びと資料をもとにしたレポート作成	【予習】60分 【復習】120分				
⑦保育者の職務と生活②—職場で学びあい、学び続ける専門職				【予習】⑥の復習 【復習】⑦での学びと資料をもとにしたミニレポート作成	【予習】60分 【復習】120分				
⑧保育者の職務と生活③—保育者の服務上・身分上の義務と身分保障				【予習】⑦の復習 【復習】⑧での学びと資料をもとにしたミニレポート作成	【予習】60分 【復習】120分				
⑨子どもの育ちの危機と子育て支援(「子育て支援」と保育者の役割)				【予習】⑧の復習 【復習】⑨での学びと資料をもとにしたミニレポート作成	【予習】60分 【復習】120分				
⑩現代社会の変化と「保育者」の仕事や課題(多様化する課題)				【予習】⑨の復習 【復習】⑩での学びと資料をもとにしたミニレポート作成	【予習】60分 【復習】120分				
⑪現代社会の変化と「保育者」の仕事や課題(多様な専門職との連携、協働、チームとしての対応)				【予習】⑩の復習 【復習】⑪での学びと資料をもとにしたミニレポート作成	【予習】60分 【復習】120分				
⑫日本の保育者のあゆみ(日本近代の幕開け～保育の発展と保育者)				【予習】⑪の復習 【復習】⑫での学びと資料をもとにしたミニレポート作成	【予習】60分 【復習】120分				
⑬日本の保育者のあゆみ(厳しい時代のなかで、戦後の保育者)				【予習】⑫の復習 【復習】⑬での学びと資料をもとにしたミニレポート作成	【予習】60分 【復習】120分				
⑭戦後保育のあゆみ、保育者の実態				【予習】⑬の復習 【復習】⑭での学びと資料をもとにしたレポート作成	【予習】60分 【復習】120分				
⑮保育者になる人へのメッセージ				【予習】⑭の復習 【復習】⑮での学びと資料をもとにしたミニレポート作成	【予習】60分 【復習】120分				
使用テキスト: 授業時に適宜資料を配布する。				その他参考文献など:					
受講上の留意点(担当者からのメッセージ): 毎時間の配布資料・ノートはファイリングして保管し、授業時に持参してください。									

## 幼児教育学科

科目名: 教育心理学			担当教員 氏名: 竹ノ山 圭二郎、石津孝治						
単 位	開講時期(年次・期)		科目の区分	授業方法	(卒業要件) 必修/選択	備考			
2	2年次	後期	専門科目	講義	選択必修	幼稚園教諭二種免許状科目(必修)			
実務経験を用いてどのような授業を行っているか: スクールカウンセラーの実務経験に基づき、教育現場における心理的支援の基礎について講義を展開している。									
授業科目の学習教育目標の概要:						キーワード			
幼児、児童及び生徒の心身の発達及び学習の過程について、基礎的な知識を身につけ、各発達段階における心理的特性を踏まえた学習活動を支える指導の基礎となる考え方を理解する。						・学習、発達、教育			
授業における学修の到達目標									
学習教育目標 (卒業認定・学位授与の方針との関連)			自己形成を進める行動目標 (福短マトリックスで示される番号)		5. 6. 7. 9.				
A 知識・理解力			教育の心理学的基礎の知識を習得する						
B 専門的技術			子どもの心理的発達をふまえた指導法を組み立てられる						
F チームワーク・リーダーシップ			自他の意見を尊重しながら、チームワーク・リーダーシップを発揮できる						
成績評価の方法・基準: 以下の方法により評価し、学則および履修要項に従い、60点以上を単位認定とする									
テスト:	%	レポート:	80 %	発表:	%	実技試験:	%	その他:	20 %
特記事項: その他には、授業での主体的参加・発言を含む。									
アクティブラーニング要素: 課題解決型学習      ディスカッション、ディベート      グループワーク      プレゼンテーション      実習、フィールドワーク									
テスト・レポート・発表・実技試験等の実施時期: 初回時に説明する。									
課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法: レポートを評価して返却する。									
授 業 計 画				準備学習(予習・復習等)					
				学習内容	学習に必要な時間(分)				
①【竹ノ山】教育心理学とは。				教育心理学についてまとめる	30				
②【石津】乳児期の発達について学ぶ。運動、言語、認知、社会性の各側面について。				乳児期の心理的発達についてまとめる	60				
③【石津】幼児期の発達について学ぶ。運動、言語、認知、社会性の各側面について。				幼児期の心理的発達についてまとめる	60				
④【石津】児童期の発達、特に認知発達と人間関係について学ぶ。				児童期の心理的発達についてまとめる	60				
⑤【石津】思春期の発達、特に自己の発達と人間関係について学ぶ。				思春期の心理的発達についてまとめる	60				
⑥【石津】青年期の発達に関する基本的事項について学ぶ。(大人になること・同一性形成)				青年期の心理的発達についてまとめる	60				
⑦【竹ノ山】学習行動の基礎について学ぶ①(行動主義、認知主義の考え方)				学習の心理①についてまとめる	120				
⑧【竹ノ山】学習行動の基礎について学ぶ②(知識の獲得、効果的な学習の条件)				学習の心理②についてまとめる	60				
⑨【竹ノ山】知能に関する基本的事項について学ぶ。(知能の定義・知能の発達・知能検査の意義と限界)				知能の心理についてまとめる	60				
⑩【竹ノ山】主体的学習を支える動機づけについて学ぶ。				動機づけの心理についてまとめる	60				
⑪【竹ノ山】子どもの育ちと集団について学ぶ。				子どもと集団関係の心理についてまとめる	60				
⑫【竹ノ山】集団における保育者の役割について学ぶ				保育者の役割についてまとめる	60				
⑬【竹ノ山】教育、保育における評価について学ぶ。				教育評価の基礎についてまとめる	60				
⑭【竹ノ山】配慮を要する子どもの理解と対応について学ぶ。				配慮を要する子どもの理解と対応についてまとめる	60				
⑮【竹ノ山】子どもの発達と現代社会のかかわりについて学ぶ。				子どもの発達と現代社会についてまとめる	120				
使用テキスト:				その他参考文献など: 「保育に生かす教育心理学」伊藤健次編、株式会社みらい、ISBN 978-4-86015-141-6					
受講上の留意点(担当者からのメッセージ): 将来、教育の一端を担う者として、責任を持って、主体的な時間外学習、積極的な授業参加をお願いします。									

## 幼児教育学科

科目名: 子どもの食と栄養Ⅱ			担当教員 氏名: 藤本 孝子			
単 位	開講時期(年次・期)		科目の区分	授業方法	(卒業要件) 必修/選択	備考
1	2年次	後期	専門科目	演習	6単位 選択必修	保育士資格指定科目(必修)
実務経験を用いてどのような授業を行っているか:						
授業科目の学修教育目標の概要:						キーワード
本授業では、栄養の基礎知識を学ぶとともに、小児の身体の発育・心の発達における食生活の役割を考え、実践する能力を養う。						小児栄養、食生活、健康
授業における学修の到達目標						
学修教育目標 (卒業認定・学位授与の方針との関連)						
B 専門的技術	小児の発育・発達の各過程における栄養と食生活の特徴を理解する。					
D 問題解決力	小児期の栄養・食生活の問題点と対策を主体的に考えることができる。					
成績評価の方法・基準: 以下の方法により評価し、学則および履修要項に従い、60点以上を単位認定とする						
テスト: 50 %	レポート: 30 %	発表: %	実技試験: %	その他: 20 %		
特記事項: その他については、授業への取り組み姿勢や演習プリント等の提出状況などが含まれる。						
アクティブラーニング要素: 課題解決型学修 ディスカッション、ディベート グループワーク プレゼンテーション 実習、フィールドワーク						
テスト・レポート・発表・実技試験等の実施時期:						
課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法: 試験問題の解説を行う。						
授 業 計 画			準備学修(予習・復習等)			
			学修内容		学修に必要な時間(分)	
①離乳期・離乳の必要性			【予習】教科書(離乳の必要性)を読む。 【復習】①の復習を行う。		【予習】60分 【復習】60分	
②離乳期・離乳の進め方			【予習】教科書(離乳の進め方)を読む。 【復習】②の復習を行う。		【予習】60分 【復習】60分	
③離乳期・離乳の実際			【予習】離乳に関するプリントを読む。 【復習】③の復習を行う。		【予習】60分 【復習】60分	
④幼児期・間食の意義と実際			【予習】教科書(幼児期の食生活)を読む。 【復習】④の復習を行う。		【予習】60分 【復習】60分	
⑤幼児期・お弁当			【予習】幼児期の食に関するプリントを読む。 【復習】⑤の復習を行う。		【予習】60分 【復習】60分	
⑥幼児期・食生活の問題点			【予習】幼児期の食に関するプリントを読む。 【復習】⑥の復習を行う。		【予習】60分 【復習】60分	
⑦学童期・思春期・食生活と栄養			【予習】教科書(学童期・思春期)を読む。 【復習】⑦の復習を行う。		【予習】60分 【復習】60分	
⑧学童期・思春期・食生活の問題点			【予習】食生活の問題点に関するプリントを読む。 【復習】⑧の復習を行う。		【予習】60分 【復習】60分	
⑨学童期・思春期・学校給食			【予習】教科書(学校給食について)を読む。 【復習】⑨の復習を行う。		【予習】60分 【復習】60分	
⑩妊娠期・食生活と栄養			【予習】教科書(妊娠期の食生活)を読む。 【復習】⑩の復習を行う。		【予習】60分 【復習】60分	
⑪妊娠期・食生活の留意点			【予習】教科書(食生活の留意点)を読む。 【復習】⑪の復習を行う。		【予習】60分 【復習】60分	
⑫食育の意義と目的			【予習】教科書(食育の意義と目的)を読む。 【復習】⑫の復習を行う。		【予習】60分 【復習】60分	
⑬食育の現状と課題			【予習】教科書(食育の現状と課題)を読む。 【復習】⑬の復習を行う。		【予習】60分 【復習】60分	
⑭食育の実際①			【予習】食育の実際に関するプリントを読む。 【復習】⑭の復習を行う。		【予習】60分 【復習】60分	
⑮食育の実際②			【予習】食育の実際に関するプリントを読む。 【復習】⑮の復習を行う。		【予習】60分 【復習】60分	
使用テキスト: 発育期の子どもの食生活と栄養, 菅原 園 他, 学建書院 ISBN978-4-7624-3877-6				その他参考文献など: やさしく学べる子どもの食—授乳・離乳から思春期まで— 堤ちはる・平岩幹男, 診断と治療社		
受講上の留意点(担当者からのメッセージ): 日頃から、自分自身の食生活にも興味関心を持つようしてください。						

## 幼児教育学科

科目名: 保育内容(健康)の指導法			担当教員 氏名: 泉 敏郎						
単 位	開講時期(年次・期)		科目の区分	授業方法	(卒業要件) 必修/選択	備考			
1	2年次	後期	専門科目	演習	選択必修	保育士資格指定科目(選択) 幼稚園教諭二種免許状科目(必修)			
実務経験を用いてどのよ うな授業を行っているか: 幼児教育現場(保育所・幼稚園)などでの、運動指導で気づいた指導のポイントなどを実際の経験をもとに 教授する・また、視覚教材を活用してより実践感覚で理解できるようにする。									
授業科目の学習教育目標の概要:					キーワード				
幼児期の健康づくりに必要な知識と技術を学んだ後、子ども達の運動現場で年齢による 発育発達の違いを学び、個々に応じた健康・体力づくりの指導方法について習得す る。					・スキャモンの発育曲線 ・幼児期の健康づくり				
授業における学修の到達目標									
学習教育目標 (卒業認定・学位授与の方針との関連)			自己形成を進める行動目標 (福短マトリックスで示される番号)		1. 2. 5. 6. 7. 8. 9. 10				
A 知識・理解力			健康づくりのための運動遊びの必要性を考慮した運動指導ができる						
B 専門的技術			スキャモン発育曲線を考慮した運動遊びの指導や説明ができる						
E 自己管理能力			他者と協力しながら、子どもへの健康づくりの指導ができる						
成績評価の方法・基準: 以下の方法により評価し、学則および履修要項に従い、60点以上を単位認定とする									
テスト:	%	レポート:	40 %	発表:	60 %	実技試験:	%	その他:	%
特記事項:									
アクティブラーニング要素: 課題解決型学習 ディスカッション、ディベート <u>グループワーク</u> プレゼンテーション <u>実習、フィールドワーク</u>									
テスト・レポート・発表・実技試験等の実施時期: ・レポート課題									
課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法: レポート用紙返却時にコメントにてフィードバック									
授 業 計 画					準備学習(予習・復習等)				
					学習内容	学習に必要な 時間(分)			
①幼児期におけるからだの発育と発達について					事後:年齢ごとの発育発達を理解する	30分			
②幼児期のこころの発達について					事後:こころの発達について理解する	30分			
③幼児の生活習慣と体力・運動能力の関係					事後:幼児の生活習慣について理解する	30分			
④幼児期の健康・体力づくりのための運動について① 理論編(資格取得)					事後:応急処置法について理解する	30分			
⑤幼児期の健康・体力づくりのための運動について② 実践・指導編(資格取得)					事後:現在の幼児の体力を理解する	30分			
⑥幼児期のケガの状況と予防策と応急処置について					事後:測定項目を理解する	30分			
⑦幼児期の健康・体力を知る① 現在の幼児の状況について					事後:測定方法を理解する	30分			
⑧幼児期の健康・体力を知る② 各種の測定方法について(視覚教材による確認)					事後:健康・体力づくりの運動を理解する	30分			
⑨幼児期の健康・体力を知る③ 各種測定方法の実践					事後:健康・体力づくりの運動を実践する	30分			
⑩アクティブ・チャイルド・プログラム(ACP)について(視覚教材による学習)					事後:ACPを理解する	30分			
⑪子どもの体力測定の実際 集中講義					事後:子どもの体力の現状を理解する	30分			
⑫子どもの体力測定の実際 集中講義					事後:子どもの体力測定方法を理解する	30分			
⑬子どもの体力測定の実際 集中講義					事後:子どもの体力測定方法を理解する	30分			
⑭子どもの体力測定の実際 集中講義					事後:子どもの体力測定方法を理解する	30分			
⑮子どもの体力測定の実際 集中講義					事後:子どもの体力測定方法を理解する	30分			
使用テキスト: アクティブ・チャイルド・プログラム 子どもの心と体を育む楽しい遊び 日本体育協会 編者:佐藤善人 青野博 ベースボール・マガジン社					その他参考文献など: 幼児のからだところを育てる運動遊び(杏林書院)				
受講上の留意点(担当者からのメッセージ): ④・⑤コマ目は資格取得のための授業になります。日本サッカー協会 キッズリーダー 実費分(2,500円程度)必要になります。 ⑪～⑮は富山県スポーツ協会と連携して体力測定の測定を集中講義で実施します。									

幼児教育学科						
科目名: 保育内容(環境)			担当教員 氏名: 清水 美里			
単 位	開講時期(年次・期)		科目の区分	授業方法	(卒業要件) 必修/選択	備考
2	2年次	後期	専門科目	演習	選択必修	保育士資格指定科目(必修) 幼稚園教諭二種免許状科目(必修)
実務経験を用いてどのような授業を行っているか: 保育教諭としての実務経験を活かし、幼児を取り巻く環境や幼児と環境との関わり方について教授する。						
授業科目の学修教育目標の概要:					キーワード	
領域「環境」の指導に関連する、幼児を取り巻く環境や、幼児と環境との関わりについての専門的事項における感性を養い、知識・技能を身に付ける。					・環境構成 ・自然体験 ・発達理解・援助	
授業における学修の到達目標						
学修教育目標 (卒業認定・学位授与の方針との関連)						
A 知識・理解力	幼児を取り巻く環境の諸側面と現代的課題を理解し、幼児の発達における、環境との					
B 専門的技術	幼児の遊びや生活における自然環境、文化的環境、地域・社会的環境について、その					
C 論理的思考力	幼児期の思考や科学的概念の発達を理解し、幼児による物や諸事象との関わりを意					
F チームワーク・リーダーシップ	グループ活動を通して、リーダーシップやフォロワーシップなど役割を理解し、チームは					
成績評価の方法・基準: 以下の方法により評価し、学則および履修要項に従い、60点以上を単位認定とする						
テスト:	%	レポート: 50 %	発表:	%	実技試験: %	その他: 50 %
特記事項:						
アクティブラーニング要素: 課題解決型学修: ディスカッション、ディベート、グループワーク、プレゼンテーション、実習、フィールドワーク						
テスト・レポート・発表・実技試験等の実施時期: 集中講義終了後、集中講義での学びをレポートにまとめる。						
課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法: レポートにコメントを記載し、返却する。						
授 業 計 画						
準備学修(予習・復習等)						
学習内容						
学習に必要な時間(分)						
第1回 オリエンテーション	【事前】①の予習【事後】①の復習					120
第2回 幼児を取り巻く環境の諸側面と幼児の発達における意義	【事後】②の復習					60
第3回 幼児を取り巻く環境の現代的課題	【事後】③の復習					60
第4回 環境との関わりにおける幼児の認知的発達	【事後】④の復習					60
第5回 生物・自然との関わりと探求	【事後】⑤の復習					60
第6回 数量や図形との関わりと探求	【事後】⑥の復習					60
第7回 幼児を取り巻く標識や文字との関わりと探求	【事後】⑦の復習					60
第8回 生活に関係の深い情報や施設との関わりと探求	【事後】⑧の復習					60
第9回 遊びにおける問題解決と思考力の芽生え	【事後】⑨の復習					60
第10回 領域「環境」のねらい・内容・内容の取り扱いについて	【事後】⑩の復習					60
第11回 環境を活かした教育・保育計画: 指導案の作成と教材研究・環境構成①	【事後】⑪の復習					60
第12回 環境を活かした教育・保育計画: 指導案の作成と教材研究・環境構成②	【事後】⑫の復習					60
第13回 環境を活かした遊びにおける援助: 模擬保育実践と評価①	【事後】⑬の復習					60
第14回 環境を活かした遊びにおける援助: 模擬保育実践と評価②	【事後】⑭の復習					60
第15回 まとめと評価	【事前】①～⑭の復習 【事後】⑮の復習					120
使用テキスト: 1. 幼稚園教育要領解説(最新版 文部科学省) 2. 保育所保育指針解説(最新版 厚生労働省) 3. 幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説(最新版、内閣府・文部科学省、厚生労働省) ※いずれも1年次に他科目で購入済				その他参考文献など: ・田宮緑(編著)『体験する調べる考える 領域「環境」』 (萌文書林)ISBN: 978-4-89347-427-8		
受講上の留意点(担当者からのメッセージ): 9月、10月の土曜日に集中講義を実施します。(日程・内容は後日詳細を配布します) 自然体験を通して領域「環境」について学ぶと同時に、自然体験活動の楽しさや意義を体感してください。						

## 幼児教育学科

科目名: 社会的養護Ⅱ			担当教員 氏名: 松尾 祐子						
単 位	開講時期(年次・期)		科目の区分	授業方法	(卒業要件) 必修/選択	備考			
1	2年次	後期	専門科目	演習	選択	保育士資格指定科目(必修)			
実務経験を用いてどのような授業を行っているか: 社会福祉士や精神保健福祉士、未成年後見人、里親としての実務経験に基づき、実状を踏まえて授業を行う。									
授業科目の学習教育目標の概要:					キーワード				
子どもが社会的養護の元で、環境に適応していくためにはどのような援助が必要か。具体事例を通して、子どもや保護者への実際的な支援方法を学ぶ。養護児童や障害児童についての理解と社会自立を目指すための援助方法や保育者としてコミュニケーションやレポートのとり方について学ぶ。					子どもの最善の利益、子どもの理解、ラポール、親子関係、自立、社会性、インクルーシブ保育、医療的ケア児、地域連携				
授業における学修の到達目標									
学習教育目標 (卒業認定・学位授与の方針との関連)			自己形成を進める行動目標 (福短マトリックスで示される番号)		1. 2. 5. 6. 7. 9. 10				
B 専門的技術			子どもの行動を洞察、分析し、共感的かかわりを通して心的負担の軽減を図る。						
D 問題解決力			事例を通して、課題解決の視点を持って問題解決アプローチの意識を深める。						
E 自己管理能力			与えられたテーマを整理し、客観的な思考力を身につける。						
G 倫理観			自身が好ましい社会規範を持ち、福祉的視点を持った児童観を獲得する。						
H コミュニケーション力			他者の意見を聞き、自己の考えを表出し感情交流が円滑にできるようにする。						
成績評価の方法・基準: 以下の方法により評価し、学則および履修要項に従い、60点以上を単位認定とする									
テスト:	%	レポート:	60 %	発表:	20 %	実技試験:	%	その他:	20 %
特記事項: その他は授業への取り組む姿勢・態度である。									
アクティブラーニング要素: 課題解決型学習    ディスカッション、ディベート    グループワーク    プレゼンテーション    実習、フィールドワーク									
テスト・レポート・発表・実技試験等の実施時期: 別に定めた日で試験を実施									
課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法: 試験を採点し、返却する際に指導する。									
授 業 計 画				準備学習(予習・復習等)					
				学習内容	学習に必要な時間(分)				
①オリエンテーション、子どもの権利擁護、最善の利益について				配布資料を読む	予習復習各60分				
②社会的養護におけるこどもの理解				配布資料を読む	予習復習各60分				
③児童福祉施設の暮らし1				配布資料を読む	予習復習各60分				
④児童福祉施設の暮らし2				配布資料を読む	予習復習各60分				
⑤施設入所と日常生活の支援				配布資料を読む	予習復習各60分				
⑥こどものアセスメント、支援計画				配布資料を読む	予習復習各60分				
⑦こどもへの心理的支援				配布資料を読む	予習復習各60分				
⑧家庭的養護について 里親制度				配布資料を読む	予習復習各60分				
⑨社会的養護の実際2				配布資料を読む	予習復習各60分				
⑩社会的養護の実際1				配布資料を読む	予習復習各60分				
⑪家族養護について				配布資料を読む	予習復習各60分				
⑫地域・学校との連携				配布資料を読む	予習復習各60分				
⑬社会的養護におけるソーシャルワーク				配布資料を読む	予習復習各60分				
⑭社会的養護の課題と展望				配布資料を読む	予習復習各60分				
⑮振り返り、まとめ				配布資料を読む	予習復習各60分				
使用テキスト: なし				その他参考文献など: 授業の中で紹介します。					
受講上の留意点(担当者からのメッセージ): 事例検討や発表に主体的・積極的に取り組むんでください。									

## 幼児教育学科

科目名: 保育内容(総合表現)Ⅱ				担当教員 氏名: 高橋、岡野、荒木、西浦、水上、林、佐々木、森田			
単 位	開講時期(年次・期)		科目の区分	授業方法	(卒業要件) 必修/選択	備考	
1	2年次	後期	専門科目	演習	必修	保育士資格指定科目(選択) 幼稚園教諭二種免許状科目(必修)	
実務経験を用いてどのような授業を行っているか: 幼稚園教諭ならびに高等学校教諭としての実務経験を活かして、教育現場における音楽活動の具体的な事例を示すことで、音楽の知識及び技能の習得に向けて、より具体的なイメージを持つことができるよう授業を行う。							
授業科目の学修教育目標の概要:						キーワード	
弾き歌いの個人レッスンを通して演奏技術を高め、保育現場で使用する童謡のレパートリーを増やしていく。また、ミュージカルの公演に向けて、歌唱、演技、舞台作り等の総合的な表現力を高めると同時に、他者との協調性やコミュニケーション力を養う。						弾き歌い、総合芸術、表現力、創造性	
授業における学修の到達目標							
学修教育目標 (卒業認定・学位授与の方針との関連)							
A 知識・理解力			ミュージカルを創り上げるための知識を身につける。				
B 専門的技術			歌唱、ピアノ、造形、演技等の総合的な表現力を身につける。				
F チームワーク・リーダーシップ			他者との協調により、音楽、舞台作り等の各分野におけるリーダーシップを養う。				
H コミュニケーション力			全員でミュージカルを創り上げることでコミュニケーションスキルを高める。				
成績評価の方法・基準: 以下の方法により評価し、学則および履修要項に従い、60点以上を単位認定とする							
テスト:	%	レポート:	%	発表:	50 %	実技試験: 30 %	
その他: 20 %							
特記事項: 上記「その他」の20%は学習態度を評価する。							
アクティブラーニング要素:							
課題解決型学修      ディスカッション、ディベート      グループワーク      プレゼンテーション      実習、フィールドワーク							
テスト・レポート・発表・実技試験等の実施時期: 発表及び実技試験は別に定めた日時に行う。							
課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法: 学生個々に評価を伝え、必要に応じて個別指導を行う。							
授 業 計 画						準備学修(予習・復習等)	
						学修内容	学修に必要な時間(分)
①【高橋、荒木、西浦】ミュージカルの各役割の計画決め			【高橋、他】童謡弾き歌い1		【復習】自主練習	60分以上	
②【高橋、荒木、西浦】舞台作り、音合わせ1			【高橋、他】童謡弾き歌い2		【予習・復習】自主練習	60分以上	
③【高橋、荒木、西浦】舞台作り、音合わせ2			【高橋、他】童謡弾き歌い3		【予習・復習】自主練習	60分以上	
④【高橋、荒木、西浦】舞台作り、音合わせ3			【高橋、他】童謡弾き歌い4		【予習・復習】自主練習	60分以上	
⑤【高橋、荒木、西浦】舞台作り、音合わせ4			【高橋、他】童謡弾き歌い5		【予習・復習】自主練習	60分以上	
⑥【高橋、荒木、西浦】演技演習、歌唱演習1			【高橋、他】童謡弾き歌い6		【予習・復習】自主練習	60分以上	
⑦【高橋、荒木、西浦】演技演習、歌唱演習2			【高橋、他】童謡弾き歌い7		【予習・復習】自主練習	60分以上	
⑧【高橋、荒木、西浦】中間報告、打ち合わせ			【高橋、他】中間発表		【予習・復習】自主練習	60分以上	
⑨【高橋、荒木、西浦】演技演習、歌唱演習3			【高橋、他】童謡弾き歌い8		【予習・復習】自主練習	60分以上	
⑩【高橋、荒木、西浦】演技演習、歌唱演習4			【高橋、他】童謡弾き歌い9		【予習・復習】自主練習	60分以上	
⑪【高橋、荒木、西浦】演技演習、歌唱演習5			【高橋、他】童謡弾き歌い10		【予習・復習】自主練習	60分以上	
⑫【高橋、荒木、西浦】演技演習、歌唱演習6			【高橋、他】童謡弾き歌い11		【予習・復習】自主練習	60分以上	
⑬【高橋、荒木、西浦】演技演習、歌唱演習7			【高橋、他】童謡弾き歌い12		【予習・復習】自主練習	60分以上	
⑭【高橋、荒木、西浦】演技演習、歌唱演習8			【高橋、他】童謡弾き歌い13		【予習・復習】自主練習	60分以上	
⑮【高橋、荒木、西浦】通し稽古			【高橋、他】期末発表		【予習・復習】自主練習	60分以上	
⑯ミュージカル本番					自主練習	60分以上	
使用テキスト: ポケットいっぱいのうた(教育芸術社)・こどもの歌ベストテン(ドレミ楽譜出版社)・こどものうた200(チャイルド本社)・コンコーネ50番から生まれた室内ミュージカル「白雪姫」(ドレミ楽譜出版社)					その他参考文献など:		
受講上の留意点(担当者からのメッセージ): 保育内容(総合表現)Ⅱはミュージカルの授業に加えて、弾き歌いの個人レッスンを受講することになります。授業での評価(ミュージカルに向けた自主練習と本番日の参加が必須条件)とピアノ、声楽実技の評価を合わせて単位を取得することができます。							



## 幼児教育学科

科目名： 臨床美術の実践Ⅱ			担当教員 氏名： 岡野 宏宣				
単 位	開講時期(年次・期)		科目の区分	授業方法	(卒業要件) 必修/選択	備考	
1	2年次	後期	専門科目	演習	選択	保育士資格指定科目(選択) 臨床美術士4級	
実務経験を用いてどのよう な授業を行っているか： 臨床美術士養成講座講師の資格を持ち、臨床美術士として保育園や幼稚園での臨床美術の実践経験を生かし、造形素 材の理解やアートプログラムの実践力の向上、福祉施設でのアート活動の実施に向けて授業を行っている。							
授業科目の学習教育目標の概要：						キーワード	
臨床美術士として、アートプログラム制作を通して造形的な技術・技法を習得すると共に、 それを用いて主体的にロールプレイングや現場実習などアクティブ・ラーニングすること によって福祉施設などでアート活動を行うための実践力を身に付ける。						・臨床美術 ・右脳の活性化 ・認知症 ・コミュニケーション	
授業における学修の到達目標							
学習教育目標 (卒業認定・学位授与の方針との関連)			自己形成を進める行動目標 (福祉マトリクスで示される番号)		2. 3. 5. 6. 7. 8.		
A 知識・理解力			右脳の活性化と認知症について理解することができる。				
A 知識・理解力			状況や関係を把握して様々な素材の使用法や表現技法を習得する。				
D 問題解決力			「ひと・こと・もの」に働きかけ、豊かに表現活動の場を設定するために、情報を収集・分析・ 整理し、目的に応じた活動案が作成できる。				
F チームワーク・リーダーシップ			リーダー・サブリーダーなどの役割を理解しチームに参画することができる。				
H コミュニケーション力			造形を通して具体的に他者を理解しコミュニケーションをすることを通して、他者に共感で き、相手の立場に立って考える事ができる姿勢を身につける。				
成績評価の方法・基準： 以下の方法により評価し、学則および履修要項に従い、60点以上を単位認定とする							
テスト： 0 %		レポート： 30 %		発表： 30 %		実技試験： 30 %	
その他： 10 %							
特記事項： ・臨床美術士4級養成講座は2024年4月に講座内容の改訂を予定しています。それに伴い、臨床美術の実践Ⅰのシラバス内容が一部変更される可 能性があります。 ・事前課題作品は100%の提出とする。欠席した場合、授業内で制作した作品及び講義内容に関する課題を課す。 ・成績評価のレポートは事前課題の提出。発表は授業内での発言。実技試験はロールプレイング、現場実習の理解と実践力。その他は積極性を指 す。 ・本科目ではアクティブ・ラーニングの一環として学生が自ら課題意識を持ち、対象者に対して臨床美術セッションを行い、実践力を身に付け、事前の 準備を含めた企画、実施、記録を行います。 毎回の準備物：脳いきいきボックス、新聞紙(朝刊1日分)、スティック糊、割り箸ペン、クロッキー帳、ウェットティッシュ、鉛筆2Bか4B							
アクティブラーニング要素： 課題解決型学習    ディスカッション、ディベート <u>グループワーク</u> プレゼンテーション <u>実習、フィールドワーク</u>							
テスト・レポート・発表・実技試験等の実施時期：							
課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法：							
使用テキスト：『臨床美術士養成講座4級』、芸術造形研究所 『臨床美術 認知症医療と芸術のコラボレーション』、芸術造形研究所				その他参考文献など：			
受講上の留意点(担当者からのメッセージ)※本科目は「臨床美術」「臨床美術の実践Ⅰ」の単位取得者のみ受講できます。 本科目は日程が不規則になっています。授業日時をよく確認してください。 ※本科目は事前課題が多い科目です。課題の提出日を常に確認してください。提出日直前に事前学習では対応できませんので、毎回計 画的に進めるようにしてください。(事前・事後学習課題の欄には提出日のみ記載してあります) 諸事情により実習の予定を変更せざるを得ない場合があります。							
授 業 計 画						準備学習(予習・復習等)	
						学習内容	学習に必要な時間(分)
回数							
1	アートプログラム実践演習「現場実習に向けて試作」①			9月19日			
2	アートプログラム実践演習「現場実習に向けて試作」②			9月19日	出題：「振り返り現場実習に向け ての試作」	60分	
3	アートプログラム実践演習「フリー実習振り返り」			10月10日	提出：「自然色からの色彩練習」 「フリー実習報告書」		
4	臨床美術コミュニケーションⅡ「鑑賞会」			10月10日	出題：「ロールプレイングのシュミ レーション」	120分	
5	アートプログラム実践演習「ロールプレイング」①			10月24日			

※前ページよりつづき

幼児教育学科

科目名： 臨床美術の実践Ⅱ		担当教員 氏名： 岡野 宏宣		
授 業 計 画			準備学習(予習・復習等)	
			学習内容	
			学習に必要な時間(分)	
6	アートプログラム実践演習「ロールプレイング」②	10月24日	出題：ロールプレイングの振り返り	60分
7	アートプログラム実践演習「ロールプレイング」③ 現場実習 準備	10月31日	出題：現場実習のシミュレーション 提出：「さまざまな技法を試す」 「さまざまな紙の描き心地を試す」	120分
8	現場実習	12月5日		
9	現場実習	12月5日		
10	現場実習	12月5日	出題：実習現場記録表	120分
11	アートプログラム実践演習「実習の振り返り」	12月12日	提出：レポート	
12	臨床美術基幹Ⅱ「臨床美術プレゼンテーション」「臨床美術士の 資質」「オンラインセッションについて」	12月19日	出題：「臨床美術基幹Ⅱ」振り返り	60分
13	アートプログラム実践演習「いろいろな線と色で遊ぼう」ロールプ レイング	1月9日		
14	アートプログラム実践演習「いろいろな線と色で遊ぼう」ロールプ レイング、	1月9日		
15	アートプログラム実践演習「いろいろな線と色で遊ぼう」ロールプ レイング、「認定後の活動」「総括」	1月16日	臨床美術協会認定申請書 (課題をすべて提出してある学生) 準備物：臨床美術ハンドブック	
16				
17				
18				
19				
20				
21				
22				
23				
24				
25				
26				
27				
28				
29				
30				

幼児教育学科

科目名: 保育実習指導Ⅱ			担当教員 氏名: 清水、泉、石津、岡野、宮越、高橋			
単 位	開講時期(年次・期)		科目の区分	授業方法	(卒業要件) 必修/選択	備考
1	2年次	通年	専門科目	演習	選択	保育士資格指定科目(選択必修)
実務経験を用いてどのような授業を行っているか:			保育教諭としての実務経験を生かして、実習の意義や保育方法、保育の改善について教授する。			
授業科目の学修教育目標の概要:					キーワード	
保育実習Ⅱは、「事前学習」「実習」「事後学修」という流れの中で行われる。本授業は、事前学習として、保育実習Ⅱの意義、保育の方法や改善等学びを深めていく。また、保育実習Ⅰ-①、保育実習Ⅰ-②での課題を踏まえて、実習に対する心構えや実習の計画、記録及び評価等について再確認を行う。事後指導としては、実習報告書の作成を通して、実習の成果をまとめ、保育者としての自己課題を明確にしていく。					・保育実習の意義 ・保育の計画と実践及び評価 ・保育実践 ・実習報告書 ・課題の明確化	
授業における学修の到達目標						
学修教育目標 (卒業認定・学位授与の方針との関連)						
A 知識・理解力	保育実習の意義を理解するとともに、保育について総合的に理解する。					
E 自己管理能力	今までの保育実習の経験を通して、保育実習Ⅱの自己課題を確認する。					
A 知識・理解力	保育実習に必要な手続きを行う。					
A 知識・理解力	保育の記録及び、自己評価を踏まえた保育の改善について、計画の立案、実践、事例を通して学ぶ。					
A 知識・理解力						
C 論理的思考力	実習報告書を作成し、保育に対する認識や自己課題を明確にする。					
成績評価の方法・基準: 以下の方法により評価し、学則および履修要項に従い、60点以上を単位認定とする						
テスト:	%	レポート:	%	発表:	%	実技試験: %
その他: 100 %						
特記事項:						
アクティブラーニング要素: 課題解決型学修: ディスカッション、ディベート、グループワーク、プレゼンテーション、実習、フィールドワーク						
テスト・レポート・発表・実技試験等の実施時期:						
課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法:						
授 業 計 画			準備学修(予習・復習等)			
			学修内容	学修に必要な時間(分)		
①保育実習Ⅰ-①、Ⅰ-②の振り返り(保育実習の意義、自己課題の確認)			【事前】保育実習Ⅰ-①振り返り 【事後】自己課題を元に今後の取り組みの計画を立てる	120		
②保育実習Ⅱの意義と内容(保育実習Ⅰ-①との違いによる子どもの保育と保護者支援)			【事前】実習指導要綱を読む 【事後】保護者支援について調べる	120		
③保育士の専門性と職業倫理(保育士の役割に基づく職業倫理について)			【事前】倫理綱領を読む 【事後】保育士の職業倫理についての取り組みをまとめる	120		
④外部講師による講義(子どもの状態に合わせた関わり、保育士のマナーと協働)			【事前】実習の子どもの関わりを書き下す 【事後】自分の関わり方を再検討	120		
⑤保育の観察、記録に基づく保育の改善(実習日誌相互添削、ビデオの記録)			【事前】実習日誌の書き方を読む 【事後】実習日誌の修正	120		
⑥保育の全体的計画に基づく具体的な計画(部分・半日・責任実習の指導案の違い、書き方)			【事前】指導案の書き方を読む 【事後】責任実習の作成	120		
⑦事前訪問について 保育の全体的計画に基づく具体的な計画の立案(部分実習の指導案作成)			【事前】部分実習の活動を考える 【事後】部分実習指導案完成	120		
⑧保育の全体的計画に基づく具体的な計画の立案(指導案相互添削) 子どもの最善の利益を考慮した具体的理解(事例研究)			【事前】指導案の書き方を読む 【事後】事例への対応をレポートにまとめる	120		
⑨保育実践力の育成(模擬保育)			【事前】模擬保育の準備 【事後】自己課題の整理	120		
⑩自己評価に基づく保育の改善と計画(部分実習の指導案修正と準備)			【事前】指導案の見直しと準備 【事後】部分実習の準備	120		
⑪保育の知識・技術を生かした保育実践(部分実習1)			【事前】部分実習の練習 【事後】指導案を修正、加筆	120		
⑫保育の知識・技術を生かした保育実践(部分実習2)			【事前】部分実習の練習 【事後】指導案の修正、加筆	120		
⑬自己評価に基づく保育の改善(部分実習の振り返り、指導案修正) 実習の目標と計画(実習全体と10日間の目標を立てる、自己課題の確認)			【事前】部分実習の自己評価 【事後】実習の目標達成に向けた計画	120		
⑭実習の内容、留意事項、書類の確認			【事前】実習指導要綱を読む 【事後】実習の準備、要綱を読む	120		
⑮実習の総括と自己評価(実習報告書の作成、課題の明確化)			【事前】自己課題と事例の選定 【事後】報告書の完成	120		
使用テキスト: 1. 開仁志(編著)『これで安心保育指導案の書き方』(北大路書房)ISBN: 978-4762826214 2. 開仁志(編著)『実習日誌の書き方』(一藝社)ISBN: 978-4863590427 3. 厚生労働省(編著)『保育所保育指針(平成30年3月版)』(フレイベル館)ISBN: 978-4-577-81448-2 ※3冊とも1年次に購入済み			その他参考文献など:			
受講上の留意点(担当者からのメッセージ): 本科目の単位を履修するためには、全ての授業に出席し課題に取り組むとともに、保育実習Ⅰ-①を履修する必要があります。また、実習をこなすにあたって実際の保育現場で必要なことを学ぶ重要な授業であり、積極的な取り組みが求められます。上記時間外においても、実習内容等に関して予習・復習・準備に主体的に取り組んでください。その他、必要に応じて追加授業を行うことや系列園との都合に合わせて適宜授業計画を変更することがあります。 本科目の履修状況によっては、保育実習Ⅰ-①の履修を認めないことがあります。						

## 幼児教育学科

科目名: 保育実習指導Ⅲ			担当教員 氏名: 岡野、高橋、石津、小川、宮越、清水、専任						
単 位	開講時期(年次・期)		科目の区分	授業方法	(卒業要件) 必修/選択	備考			
1	2年次	通年	専門科目	演習	選択	保育士資格指定科目(選択必修)			
実務経験を用いてどのような授業を行っているか:									
授業科目の学習教育目標の概要:					キーワード				
<p>保育実習は、『事前学習』『実習』『事後学習』という流れの中で行われる。保育実習指導Ⅲでは、保育実習Ⅲに向けて福祉施設の実習の意義、実習計画の立て方や保育・支援の方法などを学び深めていく。また、保育実習Ⅰ-①、保育実習Ⅰ-②での反省を踏まえ、実習に対する心構えや実習計画の立て方等の再確認を行う。事後学習として、実習報告書の作成を通して、実習の成果をまとめ、各自の課題を整理していく。</p>					<ul style="list-style-type: none"> <li>・保育実習の意義</li> <li>・実習計画</li> <li>・実習報告書</li> </ul>				
授業における学修の到達目標									
学習教育目標 (卒業認定・学位授与の方針との関連)			自己形成を進める行動目標 (福祉マトリックスで示される番号)		1. 4. 6. 9				
A 知識・理解力			保育実習の意義や目的を理解し、保育を総合的に学ぶ。						
B 専門的技術			保育実習の経験を通して、自己課題を確認する。						
C 論理的思考力			実習報告書を作成し、各自の課題をや保育に対する認識を明確にする。						
D 問題解決力			保育の改善について計画立案、実践や事例を通して学ぶ。						
E 自己管理能力			保育実習の経験を通して、自己課題を確認する。						
成績評価の方法・基準: 以下の方法により評価し、学則および履修要項に従い、60点以上を単位認定とする									
テスト:	%	レポート:	20 %	発表:	20 %	実技試験:	%	その他:	60 %
特記事項: 毎回の授業出席を原則とし、やむを得ず欠席した場合は課題を与える。課題への取り組み、提出物(期限厳守)の内容等で総合的に評価を行う。 保育実習Ⅰ-②(福祉施設での実習)の経験をもとに保育実践力の向上について学生間でのディスカッションを行う。									
アクティブラーニング要素: 課題解決型学習      ディスカッション、ディベート      グループワーク      プレゼンテーション      実習、フィールドワーク									
テスト・レポート・発表・実技試験等の実施時期:⑤～⑦で学生同士のディスカッションを行う。⑮にて報告書を作成・提出を行う。									
課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法:									
授 業 計 画					準備学習(予習・復習等)				
					学習内容	学習に必要な時間(分)			
① 保育実習Ⅰ-②の振り返りと自己課題の整理					保育実習指導Ⅲを通して目標・課題を立てる		60分		
② 子どもや利用者の最善の利益を考慮した保育の具体的理解					【予習】配布プリントの熟読		30分		
③ 子どもや利用者の保育・支援と保護者支援					【予習】配布おプリントの熟読		30分		
④ 保育士の専門性と職業倫理					【予習】配布プリントの熟読		30分		
⑤ 保育実践力の育成 (1)個々の子どもや利用者に応じたかかわり					【復習】振り返りシートの記入		30分		
⑥ 保育実践力の育成 (2)集団に応じたかかわり					【復習】振り返りシートの記入		30分		
⑦ 保育実践力の育成 (3)保育の表現技術を生かした保育実践					【復習】振り返りシートの記入		30分		
⑧ 事前訪問					【復習】予習訪問の記録をまとめる		60分		
⑨ 保育の全体計画に基づいた具体的な計画の立案					【予習】実習活動案を調べる		60分		
⑩ 実習指導案の作成					【復習】実習指導案の記入		150分		
⑪ 支援計画の作成					【復習】支援計画の記入		150分		
⑫ 実習の総括と自己評価					【予習】自己評価表の記入		60分		
⑬ 実習報告書の作成 (1)事例を通して					【復習】報告書記入		60分		
⑭ 実習報告書の作成 (2)全体的考察					【復習】報告書記入		60分		
⑮ 実習報告書の作成 (3)報告					【復習】他者の報告を聞いて気付きをまとめる		60分		
使用テキスト:使用しない。					その他参考文献など: 授業の中で適宜紹介する。 プリントなどの資料を適宜配布する。				
受講上の留意点(担当者からのメッセージ): 本科目の単位を履修するためには、全ての授業に出席し課題に取り組むと共に、保育実習Ⅲ2単位を履修する必要があります。また、実習を行うにあたって実際に必要なことを学ぶ重要な授業であり、積極的な取り組みが求められます。上記時間外においても、実習内容等に関して予習・復習・準備などに積極的に取り組んで下さい。その他必要に応じて追加授業を行う場合があります。 本科目の履修状況によっては、保育実習Ⅲの履修を認めないことがあります。									

幼児教育学科									
科目名: 保育実習Ⅱ			担当教員 氏名: 清水、泉、石津、岡野、宮越、高橋						
単 位	開講時期(年次・期)		科目の区分	授業方法	(卒業要件) 必修/選択	備考			
2	2年次	後期	専門科目	実習	選択				
実務経験を用いてどのような授業を行っているか:									
授業科目の学修教育目標の概要:					キーワード				
保育実習Ⅰ-①での学びを踏まえた上で、保育所における10日間の実習を通して、そこで生活する乳幼児、特に3歳以上児の生活や遊びを理解し、保育の方法や援助について具体的に学ぶ。					<ul style="list-style-type: none"> <li>・3歳以上児の発達</li> <li>・3歳以上児の生活と遊び</li> <li>・保育の方法と援助</li> <li>・協働</li> <li>・自己課題</li> </ul>				
授業における学修の到達目標									
学修教育目標 (卒業認定・学位授与の方針との関連)									
A 知識・理解力		乳幼児、特に3歳以上児の発達、生活と遊び、人のかかわり、集団での育ち等について多面的に理解を深める。							
A 知識・理解力		保育の計画、実践、観察、記録および自己評価を実際に取り組むことを通して、具体的な保育の方法や援助について、総合的に学び理解を深める。							
B 専門的技術									
C 論理的思考力									
D 問題解決力									
F チームワーク・リーダーシップ		保育所内、および、家庭や地域社会との協働について理解を深めるとともに、保育士の職業倫理について具体的な実践に結びつけて理解する。							
G 倫理観									
H コミュニケーション力									
E 自己管理能力		保育士としての自己の課題を明確化する。							
成績評価の方法・基準: 以下の方法により評価し、学則および履修要項に従い、60点以上を単位認定とする									
テスト:	%	レポート:	%	発表:	%	実技試験:	%	その他:	100 %
特記事項:									
アクティブラーニング要素: 課題解決型学修    ディスカッション、ディベート    グループワーク    プレゼンテーション <u>実習、フィールドワーク</u>									
テスト・レポート・発表・実技試験等の実施時期:									
課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法:									
授 業 計 画				準備学修(予習・復習等)					
				学修内容	学修に必要な時間(分)				
①	※実習先(保育所)のプログラムに沿って実習を行う。								
②									
③									
④									
⑤									
⑥									
⑦									
⑧									
⑨									
⑩									
⑪									
⑫									
⑬									
⑭									
⑮									
使用テキスト:				その他参考文献など:					
受講上の留意点(担当者からのメッセージ):									

幼児教育学科

科目名: 保育実習Ⅲ				担当教員 氏名: 岡野、高橋、石津、小川、宮越、清水、専任		
単 位	開講時期(年次・期)		科目の区分	授業方法	(卒業要件) 必修/選択	備考
2	2年次	後期	専門科目	実習	選択	保育士資格指定科目(選択必修)
実務経験を用いてどのような授業を行っているか:						
授業科目の学習教育目標の概要:					キーワード	
児童福祉施設(保育所以外)等での10日間の実習を通して、保育実習Ⅰ-②の学び等をもとに、さらに個別の子どもや利用者とのかかわりを深め、具体的な保育援助や支援の方法について学ぶ。					<ul style="list-style-type: none"> <li>・個別のかかわり</li> <li>・保育援助・支援の方法</li> <li>・社会的養護</li> <li>・協働 ・職業倫理</li> </ul>	
授業における学修の到達目標						
学習教育目標 (卒業認定・学位授与の方針との関連)			自己形成を進める行動目標 (福短マトリックスで示される番号)		2. 5. 6. 7. 8. 9. 10	
A 知識・理解力			児童福祉施設の役割や機能について、実践を通して理解を深める。			
B 専門的技術			個別の子どもや利用者への理解を深め、保育・支援計画の作成、実践、記録、自己評価等を通して、児童家庭福祉および社会的養護に対する理解を深める。			
C 論理的思考力						
D 問題解決力						
G 倫理観			施設内、および、家庭や地域社会との協働・連携について理解を深めると共に、保育士の職業倫理について具体的な実践に結びつけて理解する。			
成績評価の方法・基準: 以下の方法により評価し、学則および履修要項に従い、60点以上を単位認定とする						
テスト:	%	レポート:	%	発表:	%	実技試験: %
その他: 100 %						
特記事項: 実習先施設の評価に担当教員の評価を合わせ、総合的に評価する。 本科目はアクティブ・ラーニングの一環として児童福祉施設等で実習を行い、学内において実習報告会を実践している。						
アクティブラーニング要素: 課題解決型学習      ディスカッション、ディベート      グループワーク      プレゼンテーション <u>実習、フィールドワーク</u>						
テスト・レポート・発表・実技試験等の実施時期:						
課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法:						
授 業 計 画					準備学習(予習・復習等)	
					学習内容	学習に必要な時間(分)
※実習先施設のプログラムに沿って実習を行う。						
使用テキスト:					その他参考文献など:	
<p>受講上の留意点(担当者からのメッセージ):</p> <p>保育実習Ⅲは、保育士資格取得のため、保育実習Ⅱといずれかを選択して行われるものです。対象となる施設は、児童厚生施設、児童発達支援施設等の福祉施設です。実習は子どもたちや利用者の生活の場で行われます。そのことを十分認識し、社会人としての自覚をもって実習に臨んで下さい。尚、保育実習Ⅲへの参加は、保育実習指導Ⅰ、保育実習指導Ⅲやその他保育士資格に必要な科目の履修状況、保育実習Ⅰ-①・保育実習Ⅰ-②の実習状況や評価、短大生活への取り組み等に基づいて総合的に判断されます。</p>						

## 幼児教育学科

科目名: 教育実習指導Ⅱ				担当教員 氏名: 宮越、泉、石津、岡野、清水、高橋					
単 位	開講時期(年次・期)		科目の区分	授業方法	(卒業要件) 必修/選択	備考			
1	2年次	後期	専門科目	演習	選択	幼稚園教諭二種免許状科目(必修)			
実務経験を用いてどのような授業を行っているか: 学校現場における教員経験を活かして、幼稚園教諭としての資質や専門性について、実践的に指導を行う。									
授業科目の学習教育目標の概要:						キーワード			
教育実習は、『事前学習』『実習』『事後学習』という流れの中で行われる。2年次の教育実習指導では、「教育実習Ⅰ」での学びを踏まえ、事前学習として実習計画の立て方等の再確認を行う。事後学習として、実習報告書の作成を通して、実習の成果をまとめ、各自の課題を整理していく。						・実習計画 ・実習報告書			
授業における学修の到達目標									
学習教育目標 (卒業認定・学位授与の方針との関連)			自己形成を進める行動目標 (福短マトリクスで示される番号)		1. 4. 6. 9.				
E 自己管理能力			教育実習Ⅰを通しての自己課題を確認する。						
E 自己管理能力			教育実習に必要な手続きを行う。						
D 問題解決力			教育実習の計画を立てる。						
C 論理的思考力			実習報告書を作成し、各自の課題を整理する。						
成績評価の方法・基準: 以下の方法により評価し、学則および履修要項に従い、60点以上を単位認定とする									
テスト:	%	レポート:	%	発表:	%	実技試験:	%	その他:	100 %
特記事項: ・毎回の授業出席を原則とし、やむを得ず欠席した場合は課題を与える。 ・課題への取り組み、提出物(期限厳守)の内容等で総合的に評価を行う。 ・本科目では、アクティブ・ラーニングの一環として、グループワークでの指導案作成やそれに基づいた模擬保育を行う場を積極的に取り入れる。 ・課題の提示ならびに提出には、主にGoogleクラスルームを使用する。									
アクティブラーニング要素: 課題解決型学習      ディスカッション、ディベート <u>グループワーク</u> <u>プレゼンテーション</u> 実習、フィールドワーク									
テスト・レポート・発表・実技試験等の実施時期:									
課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法: 提出レポートや指導案にコメントを記載して返却									
授 業 計 画				準備学習(予習・復習等)					
				学習内容	学習に必要な時間(分)				
① 教育実習Ⅰの振り返りと自己課題の確認				【復習】①の復習	60分				
② 実習計画の立て方・実習指導案(半日・全日実習)の書き方について				【復習】②の復習	60分				
③ 実習日誌の書き方について1(考察の書き方)				【復習】③の復習	60分				
④ 実習日誌の書き方について2(子どもの姿の捉え方)				【復習】④の復習	60分				
⑤ 実習日誌の書き方について3(保育者の姿の捉え方)				【復習】⑤の復習	60分				
⑥ 実習指導案の作成と模擬保育				【復習】⑥の復習	60分				
⑦ 教育実習Ⅱの振り返り				【復習】⑦の復習	60分				
⑧ 実習報告書の作成				【復習】教育実習全体の復習	60分				
使用テキスト: ①開仁志編著『これで安心!保育指導案の書き方』北大路書房 ②開仁志編著『実習日誌の書き方』一藝社 ③文部科学省『幼稚園教育要領解説』フレーベル館 ※上記①～③はすべて1年次に購入済み。				その他参考文献など: 小櫃智子他『実習日誌・実習指導案パーフェクトガイド』わかば社					
受講上の留意点(担当者からのメッセージ): 本科目の単位を履修するためには、全ての授業に出席し全課題に取り組むと共に、教育実習Ⅰ・Ⅱ(4単位)を履修する必要があります。また、実習を行うにあたって必要なことを学ぶ重要な授業であるため、内容等に関して予習・復習・準備などに積極的に取り組んで下さい。本科目の履修状況によっては、「教育実習Ⅱ」の履修を認めない場合があります。									

## 幼児教育学科

科目名： 教育実習Ⅱ				担当教員 氏名： 宮越、泉、石津、岡野、清水、高橋					
単 位	開講時期(年次・期)		科目の区分	授業方法	(卒業要件) 必修／選択	備考			
2	2年次	後期	専門科目	実習	選択	幼稚園教諭二種免許状科目(必修)			
実務経験を用いてどのような授業を行っているか： 実際の幼児教育現場において教育実践や実務を体験することを通して、幼稚園教諭としての資質や専門性について実践的に学び理解を深める。									
授業科目の学習教育目標の概要：					キーワード				
教育実習Ⅰでの学びを踏まえた上で、幼稚園における10日間の実習を通して、そこで生活する幼児の発達や遊びの姿を理解し、幼児教育の方法や援助・指導について具体的に学ぶ。					<ul style="list-style-type: none"> <li>・幼児の発達</li> <li>・幼児の遊び</li> <li>・幼児教育の方法</li> <li>・保育援助・指導</li> <li>・協働</li> <li>・職業倫理</li> </ul>				
授業における学修の到達目標									
学習教育目標 (卒業認定・学位授与の方針との関連)			自己形成を進める行動目標 (福短マトリックスで示される番号)		2. 5. 6. 7. 8. 9. 10				
A 知識・理解力			幼児一人一人の発達や遊び、幼児同士のかわり・教師とのかわり、集団としての育ち等について多面的・多角的に理解を深める。						
A 知識・理解力			具体的な保育・幼児教育の方法、保育援助・指導について、保育の計画、実践、観察、記録および自己評価等について実際に取り組むことを通して、総合的に学び理解を深める。						
B 専門的技術									
C 論理的思考力									
D 問題解決力									
F チームワーク・リーダーシップ			幼稚園内、および、家庭や地域社会との協働・連携について理解を深めると共に、幼稚園教諭の職業倫理について具体的な実践に結びつけて理解する。						
G 倫理観									
H コミュニケーション力									
E 自己管理能力			幼稚園教諭としての自己の課題を明確化する。						
成績評価の方法・基準： 以下の方法により評価し、学則および履修要項に従い、60点以上を単位認定とする									
テスト：	%	レポート：	%	発表：	%	実技試験：	%	その他：	100 %
特記事項： 実習先幼稚園の評価に担当教員の評価を合わせ、総合的に評価する。									
アクティブラーニング要素： 課題解決型学習      ディスカッション、ディベート      グループワーク      プレゼンテーション      実習、フィールドワーク									
テスト・レポート・発表・実技試験等の実施時期：									
課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法：									
授 業 計 画					準備学習(予習・復習等)				
					学習内容	学習に必要な時間(分)			
※実習先幼稚園のプログラムに沿って実習を行う。									
使用テキスト： なし					その他参考文献など：				
受講上の留意点(担当者からのメッセージ)： 実習は子どもたちの生活の場で行われます。そのことを十分認識し、社会人としての自覚をもって実習に臨んでください。 なお、「教育実習Ⅱ」への参加は、「教育実習指導」やその他幼稚園教諭免許に必要な科目の履修状況、「教育実習Ⅰ」の実習状況や評価、短大生活への取り組み等に基づいて総合的に判断されます。									



## 幼児教育学科

科目名: 幼児教育演習 I			担当教員 氏名: 宮越 浩子						
単 位	開講時期(年次・期)		科目の区分	授業方法	(卒業要件) 必修/選択	備考			
2	2年次	後期	専門科目	演習	選択				
実務経験を用いてどのよう な授業を行っているか: 教育現場での経験をもとにした具体的な事例を提供しながら、子ども・保護者に対するよりよい支援の在り方を実践的に学ぶ。									
授業科目の学習教育目標の概要:						キーワード			
2年次前期科目「保育実践演習」と原則セットで、子ども・子育て支援をテーマとし、子ども・保護者を取り巻く環境および現状への理解を深めるとともに、保育者に求められる支援の在り方について学びを深める。各自が課題を設定しながら現場に出るとともに、主体的な調査、観察、討議などに基づき演習を進める。						・引き出す関わり(コーチングを用いたコミュニケーション) ・自己対話力			
授業における学修の到達目標									
学習教育目標 (卒業認定・学位授与の方針との関連)			自己形成を進める行動目標 (福短マトリクスで示される番号) 5. 6. 7. 8. 9.						
A 知識・理解力			子ども・保護者を取り巻く環境および現状への理解を深める。						
B 専門的技術			保育職に求められる専門的なコミュニケーション力(引き出す関わり)を習得する。						
C 論理的思考力			自分の研究課題を設定し、現場での子ども・保護者とのかかわりをもとに考察を深める。						
H コミュニケーション力			発表場面等で自分の学びを適切に伝えられる。また、積極的にディスカッションに参加する。						
成績評価の方法・基準: 以下の方法により評価し、学則および履修要項に従い、60点以上を単位認定とする									
テスト:	%	レポート:	30 %	発表:	20 %	実技試験:	%	その他:	50 %
特記事項: ・上記の「レポート:30%」においては、ゼミでの学び、文献や現場体験などからのレポートを評価する。 ・「発表:20%」においては、集団的な学びの場での発表を評価する。 ・「その他:50%」においては、アクティブラーニングの一環として、現場での観察・体験における取り組み姿勢・態度、課題の提出状況等を評価する。									
アクティブラーニング要素: 課題解決型学習    ディスカッション、ディベート    グループワーク    プレゼンテーション    実習、フィールドワーク									
テスト・レポート・発表・実技試験等の実施時期: レポートは、ゼミでの学び、文献や現場体験などをもとに作成する。発表は、集団的な学びの場での発表ならびに終末に各自のテーマに基づく発表会を行う。									
課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法: レポートは、ゼミでの学び、文献や現場体験などをもとに作成する。発表は、集団的な学びの場での発表ならびに終末に各自のテーマに基づく発表会を行う。									
授 業 計 画				準備学習(予習・復習等)					
				学習内容	学習に必要な時間(分)				
①ガイダンス(今後の演習の進め方)				各自の研究計画作成	【予習】60分 【復習】60分				
②子どもへの支援の在り方について(学校現場での観察・支援1)				②での気付き・学びの振り返り	【予習】60分 【復習】60分				
③子どもへの支援の在り方について(学校現場での観察・支援2)				③での気付き・学びの振り返り	【予習】60分 【復習】60分				
④子どもへの支援の在り方について(学校現場での観察・支援3)				④での気付き・学びの振り返り	【予習】60分 【復習】60分				
⑤保護者への支援の在り方について(子育て支援コミュニティでの活動計画1)				⑤の計画作成・準備	【予習】60分 【復習】60分				
⑥保護者への支援の在り方について(子育て支援コミュニティでの活動計画2)				⑥の計画作成・準備	【予習】60分 【復習】60分				
⑦保護者への支援の在り方について(子育て支援コミュニティでの活動実践1)				⑦での気付き・学びの振り返り	【予習】60分 【復習】60分				
⑧保護者への支援の在り方について(子育て支援コミュニティでの活動実践2)				⑧での気付き・学びの振り返り	【予習】60分 【復習】60分				
⑨保護者への支援の在り方について(⑦⑧での学びの振り返り・討議)				⑦⑧での気付き・学びのレポート作成	【予習】60分 【復習】60分				
⑩各自のテーマにもとづく個別指導1				各自の研究レポート作成	【予習】60分 【復習】60分				
⑪各自のテーマにもとづく個別指導2				各自の研究レポート作成	【予習】60分 【復習】60分				
⑫各自のテーマに応じた個別指導3				各自の研究レポート作成	【予習】60分 【復習】60分				
⑬各自のテーマに応じた個別指導4				各自の研究レポート作成	【予習】60分 【復習】60分				
⑭各自のテーマに応じた個別指導・討議(発表に向けて)				各自の研究レポート作成	【予習】60分 【復習】60分				
⑮これまでの学びのまとめ(学科での発表会)				⑮の学びのレポート作成	【予習】60分 【復習】60分				
使用テキスト: 使用しない。 適宜、資料を配布したり、紹介したりする。				その他参考文献など:					
受講上の留意点(担当者からのメッセージ): よりよい支援の在り方について学びを深めることは、自己のコミュニケーション力を高めることにも繋がります。課題意識を明確にもち、目指す保育者像に向かって「わたし」をつくりかえていきましょう。									

幼児教育学科									
科目名: 幼児教育演習Ⅱ				担当教員 氏名: 清水 美里					
単 位	開講時期(年次・期)		科目の区分	授業方法	(卒業要件) 必修/選択	備考			
2	2年次	後期	専門科目	演習	選択				
<p>実務経験を用いてどのような保育教諭としての実務経験から、子どもの発達と児童文化財に関する知識や技術について教授する。また、児童文化財と子どもの活動等と結びつける遊びの展開について教授する。</p>									
授業科目の学修教育目標の概要:					キーワード				
<p>2年次前期科目「保育実践演習」の後半にあたる科目である。児童文化財をテーマに、実践的活動を通じ、児童文化財の作成や活用に関する知識、技術の学びを深める。また、児童文化財と子どもの活動等と結びつける遊びの展開について、企画・実践する中で学ぶ。前期の学びや保育実習等の自らの体験を踏まえ、保育者としての自らの課題に向け、主体的に取り組む。</p>					<ul style="list-style-type: none"> <li>・児童文化財</li> <li>・子どもの発達</li> <li>・保育実践</li> <li>・教材研究</li> </ul>				
授業における学修の到達目標									
学修教育目標 (卒業認定・学位授与の方針との関連)									
A 知識・理解力			児童文化財の特性を理解や、言語に関する子どもの発達を理解を深める。						
B 専門的技術			子どもの発達に合わせた児童文化財の作成や活用に関する技術を高める。						
C 論理的思考力			個々の課題を設定し、実践現場での子どもの様子や自分の実践を振り返り、考察を深める。						
D 問題解決力			保育現場での児童文化財の活用の意義を理解し、子どもの発達に合わせた内容、保育者の援助や留意点等自ら活動計画を立て、実践することができる。						
H コミュニケーション力			学生同士で児童文化財の実践に関する気付きや学びを共有して、互いに知識・技術を高める。						
成績評価の方法・基準: 以下の方法により評価し、学則および履修要項に従い、60点以上を単位認定とする									
テスト:	%	レポート:	40 %	発表:	10 %	実技試験:	%	その他:	50 %
特記事項:									
アクティブラーニング要素:									
課題解決型学修 <span style="border: 1px solid black; border-radius: 50%; padding: 2px;">ディスカッション、ディベート</span> <span style="border: 1px solid black; border-radius: 50%; padding: 2px;">グループワーク</span> <span style="border: 1px solid black; border-radius: 50%; padding: 2px;">プレゼンテーション</span> <span style="border: 1px solid black; border-radius: 50%; padding: 2px;">実習、フィールドワーク</span>									
<p>テスト・レポート・発表・実技試験等の実施時期:          実践後に自分の実践の振り返りをレポートにまとめる。          また、14回目までに全体の振り返りとして学びと課題のレポートにまとめ、15回目に発表をする。</p>									
<p>課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法:          実践へのフィードバックを口頭で行うとともに、レポートにコメントを添えて伝える。</p>									
授 業 計 画									
準備学修(予習・復習等)									
学修内容									
学修に必要な時間(分)									
①オリエンテーション(学生自身の目標・課題の確認、今後の学びの見通し)									
【事前】自己目標・課題 確認 【事後】児童文化財 決定									
120									
②イベントでのおはなし会プログラム計画(プログラム決定、練習計画)									
【事前】プログラム考案 【事後】活動の流れ 計画									
180									
③イベントでのおはなし会プログラム練習、準備(個人練習、環境準備)									
【事前】活動 準備、練習 【事後】活動 準備、練習									
180									
④イベントでのおはなし会プログラム練習、準備(全体練習、環境準備完成)									
【事前】活動のつながり 確認 【事後】環境最終確認									
200									
⑤イベントでのおはなし会実践									
【事前】活動 個人練習 【事後】実践反省を整理									
120									
⑥イベントでのおはなし会反省(個人の課題確認、全体での振り返り)									
【事前】実践の個人課題整理 【事後】個人課題をまとめる									
120									
⑦児童文化財とつなげる遊びの展開(活動事例)									
【事後】児童文化財とつなげる遊びを調べる									
120									
⑧児童文化財とつなげる遊びの展開の計画(活動決定、計画作成)									
【事前】実践したい遊びを記入 【事後】実践の計画完成									
200									
⑨児童文化財とつなげる遊びの展開の計画(計画案の相互添削、準備)									
【事前】実践の準備 【事後】実践の計画修正、準備									
180									
⑩児童文化財とつなげる遊びの展開の実践(保育現場)									
【事前】実践練習 【事後】実践の反省を記入									
150									
⑪児童文化財とつなげる遊びの展開の反省(実践発表、学生同士のフィードバック)									
【事前】実践練習 【事後】実践の学びと改善をまとめる									
180									
⑫児童文化財の実践計画、練習									
【事前】実践で使用する児童文化財を調べる 【事後】実践の工夫をまとめる									
120									
⑬実践の学びの振り返り(実践の模擬保育1、実践報告書作成)									
【事前】実践の練習 【事後】報告書作成									
120									
⑭実践の学びの振り返り(実践の模擬保育2、実践報告書完成)									
【事前】実践の練習 【事後】報告書完成									
180									
⑮児童文化財に関する学び 報告会(学生による発表報告)									
【事前】発表練習 【事後】自己課題の整理									
120									
使用テキスト: 必要に応じて資料を配布します。				その他参考文献など:					
<p>受講上の留意点(担当者からのメッセージ):          前期の保育実践演習での学びと課題を生かして、児童文化財の教材研究を進めていきます。実際に、児童文化財を活用した活動の計画・実践していきます。実践は、図書館や保育施設でも実施する予定のため、土曜日の活動もあります。</p>									

## 幼児教育学科

科目名: 保育心理演習				担当教員 氏名: 石津 孝治					
単 位	開講時期(年次・期)		科目の区分	授業方法	(卒業要件) 必修/選択	備考			
2	2年次	後期	専門科目	演習	選択				
実務経験を用いてどのような授業を行っているか:									
授業科目の学習教育目標の概要:					キーワード				
2年次前期科目「保育実践演習」と原則セットで、1年を通して心理学領域の知識を深める。主に心理学的援助と子どもの発達に焦点を当て、受講生が自主的にテーマを設定し、掘り下げていく。前半は各自が設定したテーマに関する文献等について、個人またはグループで発表しディスカッションを行う。後半は各自のテーマに沿った個別指導となる。主体的な学びによる知識を深め、定着させるためにレポート集を作成する。					・心理的援助 ・発達				
授業における学修の到達目標									
学習教育目標 (卒業認定・学位授与の方針との関連)			自己形成を進める行動目標 (福短マトリックスで示される番号)		1. 2. 3. 4. 5. 6. 7. 8. 9. 10				
A 知識・理解力			設定したテーマについて深く理解できる。						
B 専門的技術			対人援助の基礎的技法が習得できる。						
C 論理的思考力			設定したテーマを追求し、その成果として総合演習集が作成できる。						
H コミュニケーション力			発表場面等で適切に伝えられる。また、ディスカッションできる。						
成績評価の方法・基準: 以下の方法により評価し、学則および履修要項に従い、60点以上を単位認定とする									
テスト:	%	レポート:	70 %	発表:	30 %	実技試験:	%	その他:	%
特記事項:									
アクティブラーニング要素: 課題解決型学習    ディスカッション、ディベート    グループワーク    プレゼンテーション    実習、フィールドワーク									
テスト・レポート・発表・実技試験等の実施時期:									
課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法: 毎回の課題についてコメントを伝える。									
授 業 計 画				準備学習(予習・復習等)					
				学習内容	学習に必要な時間(分)				
①子どもの発達、心理学援助等に関する文献等の発表と討論1				発表者は発表内容を構成し資料を作成する。		予習30分			
②子どもの発達、心理学援助等に関する文献等の発表と討論2				発表者は発表内容を構成し資料を作成する。		予習30分			
③子どもの発達、心理学援助等に関する文献等の発表と討論3				発表者は発表内容を構成し資料を作成する。		予習30分			
④子どもの発達、心理学援助等に関する文献等の発表と討論4				発表者は発表内容を構成し資料を作成する。		予習30分			
⑤子どもの発達、心理学援助等に関する文献等の発表と討論5				発表者は発表内容を構成し資料を作成する。		予習30分			
⑥子どもの発達、心理学援助等に関する文献等の発表と討論6				発表者は発表内容を構成し資料を作成する。		予習30分			
⑦各自のテーマに応じたレポート作成指導									
⑧各自のテーマに応じたレポート作成指導									
⑨各自のテーマに応じたレポート作成指導									
⑩各自のテーマに応じたレポート作成指導									
⑪各自のテーマに応じたレポート作成指導									
⑫各自のテーマに応じたレポート作成指導									
⑬各自のテーマに応じたレポート作成指導									
⑭発表準備				パワーポイントで資料作成		予習30分			
⑮発表実施				パワーポイントで資料作成		予習30分			
使用テキスト:				その他参考文献など: 学生の課題に応じて紹介する					
受講上の留意点(担当者からのメッセージ):									

## 幼児教育学科

科目名: 音楽表現演習				担当教員 氏名: 高橋 侑希					
単位	開講時期(年次・期)		科目の区分	授業方法	(卒業要件) 必修/選択	備考			
1	2年次	後期	専門科目	演習	選択				
実務経験を用いてどのような授業を行っているか:			幼稚園教諭ならびに高等学校教諭としての実務経験を活かして、教育現場における音楽活動の具体的な事例を示すことで、音楽の知識及び技能の習得に向けて、より具体的なイメージを持つことができるよう授業を行う。						
授業科目の学修教育目標の概要:					キーワード				
保育・教育現場における音楽教育の実践に役立てるため、歌やピアノを中心とした各楽器の演奏技術を高めながら、自らの感性や表現力を磨いていく。実践力を高めるため、様々な演奏形態での演奏会を企画し、学内外での実施を目指す。					子どもと音楽、演奏、表現力、感性				
授業における学修の到達目標									
学修教育目標 (卒業認定・学位授与の方針との関連)									
B 専門的技術			歌やピアノ、各楽器の奏法を学び、演奏技術を身につける。						
F チームワーク・リーダーシップ			演習や発表を通して、協調性や遂行力を高める。						
H コミュニケーション力			演奏会における子どもたちとの交流、触れ合いによって、コミュニケーションスキルを高める。						
成績評価の方法・基準: 以下の方法により評価し、学則および履修要項に従い、60点以上を単位認定とする									
テスト:	%	レポート:	%	発表:	50 %	実技試験:	%	その他:	50 %
特記事項: 上記「その他」においては、授業態度、意欲などを評価する。自主練習及びグループ練習を多く実施する。									
アクティブラーニング要素:									
課題解決型学修      ディスカッション、ディベート <u>グループワーク</u> プレゼンテーション <u>実習、フィールドワーク</u>									
テスト・レポート・発表・実技試験等の実施時期: 発表は別に定めた日時に行う。									
課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法: レポート及び課題提出を適宜行う。									
授 業 計 画				準備学修(予習・復習等)					
				学修内容	学修に必要な時間(分)				
①オリエンテーション				【復習】授業内容の振り返り	60分以上				
②各楽器の奏法の確認				【復習】各楽器の奏法について	60分以上				
③演奏会の企画とプログラム作成				【予習】演奏会プログラムの構成	60分以上				
④実技演習1(楽器アンサンブル)				【復習】アンサンブル奏法の習得	60分以上				
⑤実技演習2(楽器アンサンブル)				【復習】アンサンブル奏法の習得	60分以上				
⑥実技演習3(独奏)				【復習】各楽器の奏法の習得	60分以上				
⑦実技演習4(独奏)				【予習】発表準備	60分以上				
⑧中間発表と振り返り				【予習】声楽アンサンブルのプログラムの構成	60分以上				
⑨実技演習5(声楽アンサンブル)				【復習】歌唱法の習得	60分以上				
⑩実技演習6(声楽アンサンブル)				【復習】歌唱法の習得	60分以上				
⑪実技演習7(独唱)				【復習】歌唱法の習得	60分以上				
⑫実技演習8(独唱)				【復習】歌唱法の習得	60分以上				
⑬実技演習9(演奏会に向けた全体リハーサル)				【復習】自主練習	60分以上				
⑭実技演習10(演奏会に向けた全体リハーサル)				【復習】自主練習	60分以上				
⑮期末発表と振り返り				【予習】発表準備、これまでの振り返り	60分以上				
使用テキスト:				その他参考文献など:					
受講上の留意点(担当者からのメッセージ): 演奏技術の習得に向けて意欲的に取り組み、自主練習を行えることが望ましいです。単位認定には演奏会の全日程への出演が条件となります。									

## 幼児教育学科

科目名: 造形表現演習			担当教員 氏名: 岡野 宏宣			
単 位	開講時期(年次・期)		科目の区分	授業方法	(卒業要件) 必修/選択	備考
2	2年次	後期	専門科目	演習	選択	
実務経験を用いてどのよう な授業を行っているか: 臨床美術士、中・高美術教員の経験から、保育者として子どもの表現に共感する力や、子どもと造形活動を行 うための工夫する力を身に付けることを目的とした授業を行っている。						
授業科目の学習教育目標の概要:					キーワード	
子どもとの造形表現活動を企画、立案、実施する中で得られる子どもの「造形表現活 動」でしか得られない体験と成長の姿を振り返り、活動場面を分析し学んだ内容を整理 ・記録する。そのなかで、子どもの理解を深め、より良い活動内容や環境の設定、保 育士・幼稚園教諭としての援助・留意点を考察する。					<ul style="list-style-type: none"> <li>・子どもの造形表現活動</li> <li>・活動実践</li> <li>・造形表現行為についての整理・記録</li> </ul>	
授業における学修の到達目標						
学習教育目標 (卒業認定・学位授与の方針との関連)			自己形成を進める行動目標 (福短マトリックスで示される番号)			
			1. 2. 5. 6. 7. 8. 9.			
A 知識・理解力	保育・教育の場や機会における造形表現活動の意義や内容について理解することが出来る。					
B 専門的技術	保育・教育の場や機会にかかわる者としての造形表現活動に関する技術を習得する。					
C 論理的思考力	保育・教育の場や機会にかかわる者として、子どもの造形表現活動に関する意義や内 容、援助・留意点などについて理解し、実践した内容を整理・記録することができる。					
D 問題解決力	保育・教育における造形表現活動に関する意義や内容、援助・留意点などについて理解 し、自ら活動計画を立て、実践することができる。					
H コミュニケーション力	造形表現活動に取り組むなかで、自己・他者・子どもを理解し、コミュニケーションを育む ことができる。					
成績評価の方法・基準: 以下の方法により評価し、学期および履修要項に従い、60点以上を単位認定とする						
テスト: 0 %	レポート: 40 %	発表: 0 %	実技試験: 0 %	その他: 60 %		
特記事項: 『レポート(40%)』は、各活動後の学びをまとめたレポートである。『その他(60%)』は、過程の取り組み・態度である。 本科目ではアクティブ・ラーニングの一環としてグループによる制作活動を取り入れ、保育所などでの子どもたちと造形活動を行うこと を想定し授業を行っている。						
アクティブラーニング要素:						
課題解決型学習 ディスカッション、ディベート <u>グループワーク</u> <u>プレゼンテーション</u> 実習 <u>フィールドワーク</u>						
テスト・レポート・発表・実技試験等の実施時期: ⑧回目、⑭回目の授業後、活動の記録のミニレポートを作成し、⑮回目の授業終了後、 レポートを作成を課す。						
課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法: ミニレポート、レポートの提出に対して、口頭及びコメントを添えてフィードバック する。						
授 業 計 画			準備学習(予習・復習等)			
			学習内容	学習に必要な 時間(分)		
①ガイダンス(「造形表現演習」の概略の理解)						
②子どもの興味・関心を引き出すきっかけ(保育者の意識的な関わり)についての考察			【復習】事例を調べる	60分		
③子どもの興味・関心を知る(保育園等で子どもの観察) I			【復習】記録のまとめまとめ	60分		
④子どもの興味・関心を刺激するきっかけ(保育者の意識的な関わり)を考える I			【復習】材料道具を準備する	60分		
⑤きっかけを提示し子どもの興味・関心を造形活動へつなげる関わりを実践する I			【復習】記録のまとめ	60分		
⑥子どもの興味・関心を元にした造形活動案を考える I			【復習】材料・道具の準備	180分		
⑦子ども達と造形表現活動の実践 I			【復習】実践後の記録のまとめ	60分		
⑧子どもと造形活動実践後の振り返り I			【復習】ミニレポートの作成	120分		
⑨子どもの興味・関心を知る(保育園等で子どもの観察) II			【復習】記録のまとめまとめ	60分		
⑩子どもの興味・関心を刺激するきっかけ(保育者の意識的な関わり)を考える II			【復習】材料道具を準備する	60分		
⑪きっかけを提示し子どもの興味・関心を造形活動へつなげる関わりを実践する II			【復習】記録のまとめ	60分		
⑫子どもの興味・関心を元にした造形活動案を考える II			【復習】材料・道具の準備	180分		
⑬子ども達と造形表現活動の実践 II			【復習】実践後の記録のまとめ	60分		
⑭子どもと造形活動実践後の振り返り II			【復習】ミニレポートの作成	120分		
⑮子どもが主体的に造形表現活動へ取り組むための保育者の関わりについて・まとめ			【復習】レポートの作成	180分		
使用テキスト: 必要に応じて資料を提供します。			その他参考文献など: 適時紹介します。 造形表現活動に関する文献を多く読むこと。			
受講上の留意点(担当者からのメッセージ):						

## 幼児教育学科

科目名: 幼児体育演習				担当教員 氏名: 泉 敏郎					
単 位	開講時期(年次・期)	科目の区分	授業方法	(卒業要件) 必修/選択	備考				
2	2年次 後期	専門科目	演習	選択					
実務経験を用いてどのよ;健康運動指導士として、健康づくりに関連するイベントの企画・運営を行ってきたので、その時に経験した うな授業を行っているか:企画力・コミュニケーション能力について幼児を対象としたイベントに関わるなど実践的な体験をする。									
授業科目の学習教育目標の概要:					キーワード				
前期の保育実践演習引き続き、アクティブラーニングの一環として、幼児に特化したス ポーツイベントに参加もしくは企画・運営する。また、子どもの運動教室に参加し実際に 子どもへの指導を体験する。					・健康づくり、体力づくり ・幼児体育				
授業における学修の到達目標									
学習教育目標 (卒業認定・学位授与の方針との関連)			自己形成を進める行動目標 (福短マトリックスで示される番号)		1. 2. 5. 6. 7. 8. 9. 10				
A 知識・理解力		健康づくり、体力づくりに必要な知識について理解する							
B 専門的技術		生涯を通じてスポーツに親しむためのスキルを身につける							
D 問題解決力		様々な状況に応じて各人が判断する能力を高める							
H コミュニケーション力		仲間と協力してやり遂げるコミュニケーション能力の構築							
成績評価の方法・基準: 以下の方法により評価し、学則および履修要項に従い、60点以上を単位認定とする									
テスト:	%	レポート:	%	発表:	50 %	実技試験:	%	その他:	50 %
特記事項:									
アクティブラーニング要素: 課題解決型学習 ディスカッション、ディベート グループワーク プレゼンテーション <u>実習、フィールドワーク</u>									
テスト・レポート・発表・実技試験等の実施時期: 後期中に企画・運営するイベントの参加を必須とする。									
課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法:									
授 業 計 画				準備学習(予習・復習等)					
				学習内容	学習に必要な 時間(分)				
①オリエンテーション(後期のスケジュールイベント日時の確認と内容について)				[予習]イベントの企画について	15分				
②インクルーシブスポーツイベント①(障害者スポーツ大会)				[事後]イベントに参加しての気づき	20分				
③インクルーシブスポーツイベント②(障害者スポーツ大会)				[事後]イベントに参加しての気づき	20分				
④インクルーシブスポーツイベント③(障害者スポーツ大会)				[事後]イベントに参加しての気づき	20分				
⑤健康・体力づくりに関するイベントⅠの実施 ①				[事後]イベントに参加しての気づき	20分				
⑥健康・体力づくりに関するイベントⅠの実施 ②				[事後]イベントに参加しての気づき	20分				
⑦健康・体力づくりに関するイベントⅠの実施 ③				[事後]イベントに参加しての気づき	20分				
⑧健康・体力づくりに関するイベントⅠの実施 ④				[事後]イベントに参加しての気づき	20分				
⑨ゆるゆる大運動会準備				[事前]イベント準備	20分				
⑩ゆるゆる大運動会イベント①				[事後]イベントに参加しての気づき	20分				
⑪ゆるゆる大運動会イベント②				[事後]イベントに参加しての気づき	20分				
⑫1万人規模のスポーツイベントへの参加 ①(富山マラソン)				[事後]イベントに参加しての気づき	20分				
⑬1万人規模のスポーツイベントへの参加 ②(富山マラソン)				[事後]イベントに参加しての気づき	20分				
⑭1万人規模のスポーツイベントへの参加 ③(富山マラソン)				[事後]イベントに参加しての気づき	20分				
⑮活動の振り返り				[事後]イベントに参加して振り返り	20分				
使用テキスト: 特になし。適宜資料を配布します				その他参考文献など ・幼児のこころとからだを育てる運動遊び					
受講上の留意点(担当者からのメッセージ): ・授業は基本的に集中講義中心の授業になります。									

## 幼児教育学科

科目名: 保育・教職実践演習(幼稚園)			担当教員 氏名: 岩田、宮越、石津、泉、岡野、清水、高橋			
単 位	開講時期(年次・期)		科目の区分	授業方法	(卒業要件) 必修/選択	備考
2	2年次	後期	専門科目	演習	選択	幼稚園教諭二種免許状科目(必修)
実務経験を用いてどのよう な授業を行っているか: 学校現場における教員経験者が、幼稚園教諭としての資質や専門性について、グループ討議や模擬授業を通して実践的に指導を行う。						
授業科目の学習教育目標の概要:					キーワード	
幼稚園教諭としての資質(心情・意欲・態度)の向上、子どもの育ち・学びを支援するための知識・技術の向上をめざし、現場実習後の各自の課題を克服することを目標とする。その際、グループ討論やグループでの模擬授業の実践を取り入れ、学びを深めていく。					・幼稚園教諭としての資質 ・子どもの育ち・学び ・支援 ・各自の課題	
授業における学修の到達目標						
学習教育目標 (卒業認定・学位授与の方針との関連)			自己形成を進める行動目標 (短マトリックスで示される番号)		1. 2. 4. 5. 6. 9. 10	
C 論理的思考力	講義での学びをもとに実習時の取組みを振り返り、自己課題を探る。					
A 知識・理解力	幼稚園教諭としての資質や専門性に関する理解を深める。					
D 問題解決力	模擬授業指導案作成、実践、自己評価を通して、自己課題を克服する。					
F チームワーク・リーダーシップ	役割を分担しながら模擬授業を実践することを通して、他者と協同・協働し共に育ち合う。					
G 倫理観	幼稚園教諭としての職業倫理を確立する。					
成績評価の方法・基準: 以下の方法により評価し、学則および履修要項に従い、60点以上を単位認定とする						
テスト: %	レポート: 30 %	発表: 30 %	実技試験: %	その他: 40 %		
特記事項: 授業態度、履修カルテの記入状況、レポートの内容(期限厳守)、模擬授業への取り組み、グループ活動の貢献度等から総合的に判断する。毎回の授業出席を原則とし、やむを得ず欠席した場合は課題を与える。						
アクティブラーニング要素: 課題解決型学習      ディスカッション、ディベート      グループワーク      プレゼンテーション      実習、フィールドワーク						
テスト・レポート・発表・実技試験等の実施時期: グループでの指導案作成や模擬保育、園での授業実践						
課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法: 提出レポートや指導案にコメントを記載して返却						
授 業 計 画			準備学習(予習・復習等)			
			学習内容		学習に必要な時間(分)	
①【岩田】保育者の役割			①の復習		240分	
②【岩田】学級経営(園目標、学級目標、月案、週案、日案)			②の復習		240分	
③【岩田】幼児の生活(一日・一年)			③の復習		240分	
④【岩田】保育者の仕事(一日・一年)、外国籍の子どもへの対応、保育の危機管理・トラブル対応			④の復習		240分	
⑤【岩田】家庭・小学校・地域との連携			⑤の復習		240分	
⑥【石津】幼児理解(いろいろなタイプの子ども)			⑥の復習		240分	
⑦【石津】保育者としての資質・能力			⑦の復習		240分	
⑧模擬授業の計画立案			模擬授業指導案の作成		300分	
⑨模擬授業の教材研究及び指導案の作成に関して			模擬授業指導案の作成		300分	
⑩グループ毎の模擬授業(1)			①音楽的な遊びを中心に		模擬授業指導案の評価・反省 120分	
⑪グループ毎の模擬授業(2)			②造形的な遊びを中心に		模擬授業指導案の評価・反省 120分	
⑫グループ毎の模擬授業(3)			③身体的な遊びを中心に		模擬授業指導案の評価・反省 120分	
⑬グループ毎の模擬授業(4)			④言語的な遊びを中心に		模擬授業指導案の評価・反省 120分	
⑭指導案に基づく授業実践			授業指導案の評価・反省		120分	
⑮全体を通しての講評・教員としての資質能力の確認・まとめ			履修カルテの作成		60分	
使用テキスト: 特に使用しない。			その他参考文献など: ・『幼稚園教育要領解説』文部科学省 ・『保育所保育指針解説』厚生労働省 ・『幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説』内閣府・文部科学省・厚生労働省			
受講上の留意点(担当者からのメッセージ): ・これまでの学びをもとに、幼稚園教諭としての資質を確立するための大切な授業です。演習内容に関して、事前・事後の学習課題に積極的に取り組み、授業に参加して下さい。 ・本授業開始時まで、2年次前期までの履修カルテを作成しておく必要があります。						